

いちばら

編集・発行
市原市役所企画部広報広聴課
〒290-8501 市原市国分寺台中央 1-1-1
☎ 0436-22-1111(大代表)
URL <http://www.city.ichihara.chiba.jp/>

2011年(平成23年) 1339号
毎月1・15日発行

3月 1日

主な内容
町会・自治会への加入を……………2
いちばら特別支援『スクラム』を作成 など…3
【特集・1面より続く】市原史、地名にあり…4・5
情報ページ 鳥インフルエンザに注意、急病診療
案内、相談案内など……………6・7
この街あの人この人 三井千葉サッカークラブジュ
ニアユース『ウィットーリア』……………8

地名の由来で見ると市原

歴史や伝説が満載

私たちの住むまちには、珍しい読み方をする地名がたくさんあります。地名は、地域の地形や歴史・伝説にちなんで名付けられることが多く、それ自体が貴重な文化遺産です。『地名』の由来をひもといて、郷土の地理や歴史をのぞいてみませんか(4・5面に続く)。

『市原』の名の由来

①昔、櫟の木(イチイガシ)がこの地によく合い、生い茂っていたため。②昔、原に市場が立ったことから。なお『市原』という地名はすでに万葉集に見ることができる。(地方史)

出典

本文の文末には、出典を表記しています。次の出典は、略字で表記しています。
・市原郡誌Ⅱ郡誌
・市原地方史研究第十八号Ⅱ地方史
・角川日本地名大辞典Ⅱ地名辞典

おことわり

地名の由来は、明確には断定できないものが多く、本特集で取り上げた地名も例外ではありません。説の対立などにより、由来は断言できないことを、あらかじめおことわりしておきます。

岩崎、玉前

ともに地形にちなむ。『岩』は、往古養老川の河口に岩などが堆積したことから。『玉』は「水がタマる」、『前』と『崎』は同義で、「先端」の意味。(地方史)

なお当地周辺は海苔養殖の歴史がある。明治末年から本格的に養殖が展開され、臨海部の埋め立て時まで続いた。



海苔養殖の様子

大厩

かつて『大馬屋』とも書いた(元禄郷帳、天保郷帳、旧高田領取調帳など)。多くの類例から馬牧との関連が考えられるが、確かな証拠はない。(地方史)



潤井戸

昔、尽きることなく湧き出る水により、日照りが続いても多くの水田が潤った。(市津の民話)

湧き水に対する感謝の気持ちを込め、現在も碑を立てて水神がまつられている。



水神を祀る石碑

不入斗

①『入山瀬』が転じたもの。谷間の入口。②昔、神社への献用地とされ、税の対象にならないことから『不入計』と呼んだ。(地方史)

つきで月出

高台の『つき(突き)出た所』。当地にある東漸寺の寺伝では、天平9年に行基(=僧)がこの地を訪れた際、夕陽を受けて金色に輝く古木を見つけ、この古木から本尊の薬師如来と日光・月光菩薩像が作られた、とある。この故事により、『突出』から『月出』に変化した。(地方史)

万田野

①里伝では、隣地(木更津)にある真里谷城が落ちたとき、『曼荼羅』(仏画)が持ち出され、後に寺に納められたことから。②「茨の生えた所」から『茨田』に由来。(地方史)



五井

伝説では、刀工宗近が名工正宗から「良い刀を打つには良い水が必要」と教えられ、井戸を次々に掘った。5つ目の井戸水でついに名刀を鍛えることができたので、五井と名付けた。(地名辞典)



養老、養老川

『養老』は、明治8年に2村の合併時に命名。地内を流れる養老川にちなむ。(市原地方史別巻)

『養老川』の由来は次のとおり。金沢文庫所蔵そのの中世文書では、海保から中高根辺りを『与宇呂保』としている。ヨウロとは古語でヒカガミ(膝を曲げたときの内側)のこと。川の流れが西広辺りで急に西へと方向が変わり、これが膝を曲げた形に似ていることから。(地方史)



膝を曲げた形のような養老川

市民活動団体 市原市災害ボランティアを紹介(16) ネットワーク



倒壊家屋からの救出訓練

阪神・淡路大震災を契機に始まった災害ボランティア活動です。市民として出来ることを実践すべく発足して6年目。『防災の絆、ひとづくり・まちづくり』のため、防災講習会や防災訓練などの手伝いを通じ、地域の皆さんが力を合わせて災害から身を守るよう、活動しています。ご連絡いただければ、お住まいの地域にも伺います(事務局長 白尾克伸さん)。

問合せ NPO・ボランティア支援室 ☎ 9998

国が観光立国に向けて取り組む中、平成21年度の千葉県の観光入り込み客数は、アクアラインや館山自動車道などの効果により安房や君津地域で増加傾向が目立ち、年間1億5千万人を超えました。

平成24年度には、本市の新たな玄関口として首都圏中央連絡自動車道の(仮称)市原南ICの開設が予定され、首都圏などから「中房総」エリアへの交通の利便性が高まります。

本市でも、もてる観光資源をさらに磨き上げ、周辺地域と連携して、「行ってみたい」「また行きたい」と思えるような観光拠点づくりに、皆さんと一緒に取り組んでいきたいと考えています。

市長 佐久間隆義

中房総

伊豆半島の中伊豆のように、房総半島にも『中房総』があることを存じてしようか。本市から平成20年に、県中央部から勝浦市や御宿町などの太平洋に面した地域の4市4町に声を掛け、『中房総観光推進ネットワーク協議会』を設立いたしました。

この協議会では、それぞれの魅力を競い合うだけでなく、協力・連携して季節を問わず楽しむことができる周年型の観光地づくりを目指し、首都圏の皆様の中房総の魅力堪能していただける取り組みをはじめるところです。



中房総の観光パンフレットを手に

いちはら (81)